

北海道教区報

第543号

発行所

天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南8条西11丁目
電話011(561)-1148
FAX 011(561)-1190
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社



11月4日

教区学生会 おつとめ総会

3月の春学に向けて前進

第33回北海道教区学生会は、11月4～5日、総会を開催、全道各地から時間をかけて、たくさんの方が教務支庁に集まってくれました。

1日目は、レクリエーションで緊張をほぐし、さらに親睦を深めみんな笑顔で楽しそうでした。

おつとめ練習では鳴り物に初めて触る会員も見よう見まねで一生懸命真剣に取り組んでいました。

2日目、総会本番では皆んなお手振りに鳴り物に緊張しながらでしたが、一手一つとなって陽気につとめ、十二下りが終わった時は喜びに溢れていました。

3月の「春の学生おぢばがえり」に向けて、より一層北海道教区学生会に勢いがついたらと感ぜられる、とても有意義な行事になりました。

(学生会委員長 吉田徳香)

〈参加者〉

- 40名 男子24名 女子15名
- 中学生4名 高校生16名
- 専門学校6名 大学生9名

生き生きとわかぎの集い



10月28日

まず初めに、この夏の少年ひのきしん隊の記録DVDを鑑賞。参加した人はとても懐かしがり、参加できなかった人は、目に映る同世代の勇んだ姿を楽しんでいました。

今回は、みんなで一緒に何かしようと考え、餃子作りに挑戦しました。それぞれに役割分担を決めて取り組んで、グツと距離が近づいて、とても仲が良く、素敵な活動になりました。その後の座りつとめの練習、教区周辺の清掃では、はじめに集中して、はしゃいでいた姿から一変したのも、心地よく感じました。

いつも、わかぎの集いは2日間とは言え、お互いが触れ合うのはほんの一瞬で、お互いを理解し合って助け合い、力を合わせるには時間が少なすぎるのですが、子供たちの生き生きとした姿が頼もしく映り、有り難く勤めさせていただきました。来年も、是非とも、多くの子供たちに、輝ける機会を与えてくださいますようお願いして、報告とお礼と致します。

(団長・久米田)

北海道教区福祉おつとめ総会開催

眞実をもつて社会貢献していく姿勢

記念講演 板倉知幸本部福祉課長

北海道教区福祉厚生部(伊藤逸雄部長)は、11月3日、北海道教務支庁において、福祉おつとめ総会を開催した。支庁福祉担当者もとより、保護司や教誨師、民生委員・民生児童委員、里親、三布連など、道内で活躍する福祉関係の会長はじめ、よふぼく・信者が一堂に会した。

当日は、好天に恵まれ、遠近を問わず道内各地から、男女合わせて60名余が駆けつけ、中には子供連れの方もおられた。

おつとめ着に身を包み、午前10時、伊藤部長の手にあわせて三殿を礼拝。坐りづとめ、前半・後半下りと3交代で陽気に勇んでつとめた。

おつとめ終了後、式典で伊藤部長は「福祉はおたすけであり、社会に益する活動である。人々の中に入ったたすけ上げる里の仙人を目指そう」と呼びかけた。続いて記念講演が行われ、本



部准員で本部社会福祉課長の板倉知幸先生は、初めに、「かしもの・かりものの理が分かって心に治まれば、次にはご恩報じの気持ちにつながってくる」と

前置きされた上で、現代社会において、社会福祉の需要が高まっている中、教内の福祉関係者による里親や保護司、子ども食堂、教誨師などの活動において、「ひのきしん精神に基づくと

おつとめ終了後、式典で伊藤部長は「福祉はおたすけであり、社会に益する活動である。人々の中に入ったたすけ上げる里の仙人を目指そう」と呼びかけた。続いて記念講演が行われ、本

演要旨抜粋

その上で、誠眞実をつくすということ、そしてご恩報じの思いを強く心に持って社会に寄与する。お道ののをいをかける努力をする。そして、おたすけに奮起することをお互いに誓い合い進んで行きたい、と結ばれた。

なお、この福祉おつとめ総会の前日、11月2日の午後3時から、今年度の後期福祉担当者会議が教務支庁で開催され、道内各地から20余名が参集し、これまでの活動内容を報告すると共に、今後の動きについて、熱心に練り合いが行われた。(古川慎司記)

【記念講演要旨】

「世の中では子どもの虐待という社会問題が見られ、家庭が崩壊している現実をたすける手立てとして、児童相談所は、里親に一旦預けて、状況を変えてたすけるといふ里親制度にも、天理教は大きく関わっています。

また、保護司、教誨師としても、支援施設も含めて、162名が関わっています。何らかの事情から家庭に恵まれず、人間としての温もりを味わえず、刑務所などの施設に入る。そこから、元の陽気暮らしができるように、人

間としてのぬくもりを伝えてゆくの、助かりのお手伝いとなります。皆、大きく社会貢献をしています。

誠に、大きく社会貢献をしていくわけで、種まきになるのは間違いないわけです。そこで、私達は、世間一般の貢献とは違い、お道の精神でもって、おたすけという意味合いで、人さまに喜んで頂く、それがお道としての社会貢献であります。そこには、眞実というものが、しっかりと伴っていないと、なかなか続いていかないと思うのであります。

誠眞実といえ、身をもって示され、よふぼくの手本、鏡となつて居るのは、私は、御本席・飯降伊蔵先生であると思えます。そこで、少しばかり、先生の足跡を辿って話をし、私達の心の依り処にしたいと思えます。

先生は、立教より24年目、1864年に、妻のおさとさんの産後の思いをおたすけいたたいて、信仰につかれます。嬉しくてうれしくて、お屋敷に通つて来られます。おさとさんは3度目の奥さんで、それまで一人目は初産後に出直し、子どもも夭折。二人目は身持ちが悪くて別れていたので、おさとさんには

心底助かって頂きたかつたんですね。教祖を慕って教えのままに腹帯を取り、散薬を頂くと良くなつた。夜が明けけるのを待ちかねて、お屋敷に行く、「案じてはいかん」と教えられると、又散薬を飲ませる。そして、その夜は、3度もお屋敷に通われています。

その後、何かお札をさせていただきたいとお屋敷を訪れますと、礼拝の目標である御幣が裸のままお祀りしているのを見て、お社の献納を思いつかれます。そこから、勤め場所の普請につながります。

また、ある寒い夜にお屋敷に参拝すると、囲炉裏に焚くものもなく、教祖もこかん様も寒そうにされている。薪小屋をのぞくと何もない。そこで、そこらの枝や枯葉を集めて暖を取られたという事です。(中略)

色々申しましたが、飯降伊蔵先生が遺されたことは、誠眞実を尽くすこと、そして、ご恩報じのお札をすること、それで社会に寄与する。それは社会にお道の教えを映すこと・にをいかけにつながります。心して通らせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございます。(編集部)

里親推進研修会報告

里親という

おたすけを学ぶ

教区福祉厚生部

去る10月29日、十勝支部の帯広分教会で、教区福祉厚生部伊藤逸雄部長の里親連盟が推進研修会を開催しました。52名という多数の参加者を頂き、実りある研修会となりました。

十勝支部長、福祉担当者、支部内教会長の皆様のお声かけのおかげで、多くの参加を頂きました。プログラムも年々洗練されてきて、児童相談所の説明、連盟や教区からの里親推進の呼びかけ、そして、里親夫婦二組が実際の生活について語り、最後に6人一組となって「お道の子育て」「里親というおたすけ」をテーマに練り合いがなされ、参加者全員が内に秘めた思いなどを語って、3組の夫婦が里親登録に進むという結果を与えて頂きました。

里親も年々年老いていきますので、次々と新しい里親へのつながりが求められています。そこで、推進研修会を開催し、続けていますが、来年は既に函館での開催が予定されており、楽しみにしています。

また、今回、他宗教の方が2名参加されたり、元衆議院議員の参加があったりとバラエティーに富み、お道の子育てについて学ぶ機会を与えられ、にいがけにつながって、意義深い研修会であったと思います。

(担当・岡崎秀人)



支部総会報告

●札幌白豊支部(支部長・武田一教)は11月4日札幌市清田区の天理教北栄分教会にて、支部総会を開催、少年会員18名を含む62名が参加した。

この日は道内に12月並の寒気が入り、札幌近郊の山々は雪景色となった。

10時開式、武田支部長は祭文にて、基礎講座やようぼく成人

講座などの開催報告を親神様に言上、更に、おちばでは後継者講習会が開催され、地域活動でも、人材育成の後押しとなるような活動をこれからも展開してゆく決意を申し上げた。座りづとめの後、続いて少年会員によるよろづよ八首、前半、後半と四交替にてつとめた。

続く式典の部では、支部長挨拶、各部・各会から報告や、今後の活動案内が伝えられた。

記念講演には、天理教平取分教会長和田与志男先生の講話があり、スクールカウンセラーとして、学生へのおたすけについて



てお話し下され、悩みや問題を抱える生徒には「辛抱強く待つ」「傾聴」ということがとても重要であると、自らの体験談を交えてご教授くださいました。

式典後、直会会場へ移動。青年会によるゲーム大会や大抽選会で大いに盛り上がり、更にカラオケでそのひと時を和やかに過ごし、教友同士がいろいろな話にて親睦を深める中、一同喜びの笑顔にて散会した。

支部 藤野

●余市支部(支部長・森明)

では、11月5日、余市港分教会を会場におつとめ総会(参加25名)を開催した。10時より、三代真柱様のCDを音源に全員総立ちでよろづよ八首より12下り目まで、てをどりをつとめた。

続いて総会では、教区長祝辞、支部長挨拶、会務報告、その後、記念講話として後志分教会富樫孝志会長が、この道に引き寄せられた元一日につき話された。職場につとめてから休みをとってまで毎月次祭に欠かさず夫婦で参拝、定年の3年前に退職し、道一条になる。5年前、集中治療室に入るほどの大病を患うが、出血が止まり、手術の必要がないとの診断を受けるご守



護をいただき退院する。その後、年に一度の定期検査に行っていたが、「血管にも異常がないので次回の検診はいいですよ」と言われるまでになった。「月次祭は命をつないでくださることなので、できるだけ毎月参拝させていただけますよ」と締めくくられた。その後、直会、ピングではそれぞれ豪華景品をいただいた。このたびは半数の管内教会が欠席で少人数の総会であったが、わきあいあいの中、来年は、支部創立50年目という節目の年となるので、支部活動の向上に尚一層の御協力賜りますことをお願いして散会した。

支部社友 中田 淳

新会長さん紹介

(平成29年9月26日お運び)

旭川支部

上旭分教会(郡山)

奉告祭10月1日



大平 ミツコ 氏 (76歳)

札幌白豊支部

北央分教会(郡山)

奉告祭10月8日



高橋 豊 氏 (68歳)

南空知支部

本三川分教会(夕張)

奉告祭10月9日



眞鍋 桂司 氏 (53歳)

北見支部

上武華分教会(嶽東)

奉告祭11月12日



奥山 英典 氏 (33歳)

支部布教部長研修会

II 支部活動を

背負って立つ意欲でII

秋も深まった11月1日から2日にかけて、教区布教部(美田伸一郎長)では、支部布教部長研修会を開催した。

各支部の布教部長及び代理で参加した26名は、神名流しを始めとする研修で、今年の足元の活動を振り返り、来年度への意欲を高めた。

布教部の活動は、各支部での天理教としての看板の動きであり、全教一斉ひのきしんデー、にをいがけデーから、成人講座、陽気ぐらし講座、そして、天理時報の手配りひのきしんなど、年間を通して教区としての活動であるだけに、その活動報告と来年度の方向性を確認することは、大きな意味がある。

1日午後に参集した一同は、まず神名流しに出て、乾いた札幌の空に、拍子木の音を響かせた。その後の研修では、同時に参集した災救隊のメンバーと青年会も加わって、支部活動の報告をし、支部における状況などを練り合った。また、後半は、7月26日に起きたかんろだいの事情を、本部布教部長の井筒先生の録音のお話から伺って、全員で

練り合い、活発なものとなった。

次いで夜には懇親会がもたれ、翌朝の庁舎屋外の枯葉やゴミ拾いひのきしんを勇んで勤めて、研修は閉じられた。参加者は一様に来年への勇み心とやる気を頂いた。

学生層育成者講習会

11月4日教務支庁にて、学生会の担当者を含め、学生の育成に携わる者が、本部からの講師の話聞き、勉強、ねらいあいのする機会であり、教区学生会の総会に各支部から育成担当者が学生を引率して集まるこの機会に、今年も支部担当者13名を含む20名で開催された。



講師には、本部学生担当委員

会より飯降好助先生をお迎えして、まなびばのエクササイズ体験会ののち、自らの学生との関わりと、を通して感じた事、経験をお話しして下さいました。

その後、支部担当委員長会議。各支部担当者が、現在の支部活動の状況を話し、来年度に向けての動きを確認、話し合った。夜には、講師の先生と共に懇親会が行われた。

副委員長大脇記

けいじばん

◎法律に関する諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

◎手話・点字講習会

毎月1日、教務支庁にて午後6時から8時まで行います。

※雅楽練習会も併行して開催しています。(二布連)

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式をおこなっております。

計報

・吉田ノブ様 10月21日出直(90歳)
厚真分教会前会長夫人(日高支部)

北海道教務支庁日誌抄

(10月20日、11月17日)

- 10月22日 しらゆき会例会
- 26日 本年秋季大祭遙拝式
- 29日 少年会わかぎの集い
- 30日 第192回基礎講座 倶知安会場

講師 和田与志男 (受講50名 累計8495名)



基礎講座倶知安会場

- 11月1日 たすけ推進会議
- 支部布教部長研修会
- 災救隊支部隊長会議
- 2日 支部長会議
- 3日 福祉おとつめ総会
- 4日 任命願書発送
- 学生会おとつめ総会
- 10日 事情願書発送
- 11日 道の教職員の集い 教育フォーラム
- 17日 教区報編集会議